

2020/05/02

香港日本語教育研究会 日本語教育 ウェビナー  
「オンライン授業の現在」

# オンライン授業と対面授業の デザインの違い

– オンラインの利点と課題を考える –

国際交流基金ニューデリー日本文化センター  
日本語アドバイザー  
蟻末 淳

[jun.arisue@jfindia.org.in](mailto:jun.arisue@jfindia.org.in)

<https://www.facebook.com/JFSouthIndia>



## 0. 自己紹介

1. 「対面⇔オンライン」から「同期⇔非同期へ」
2. 「教える」から「学ぶ」へ
3. Can-doから目標と評価を考える
4. SAMRモデル – ICT化で授業を変える

# 0. 自己紹介など



蟻末 淳(ありすえじゅん)

1999年～2010年 フランス国立ボルドー第三大学講師他

国際交流基金

2010年～2013年 ケニア国立ケニヤッタ大学 客員講師

2014年～2017年 メキシコ日本文化センター 日本語アドバイザー

2017年～ ニューデリー日本文化センター 日本語アドバイザー

(南インド担当)

# 0. 自己紹介など

## 何が得意？

### ■ ネットワーク構築

- 東アフリカ日本語教育会議（ケニア）
- 中米カリブネットワーク（メキシコ）
- 南アジア日本語教育国際シンポジウム
- 南アジア日本語ショートフィルムコンテスト（インド）

# 0. 自己紹介など

何が得意？

e-learning、オンライン教育、広報など

☆ e-learning ☆ ☆ 広報やウェビナー ☆

<http://j-learning.com/>

<https://www.facebook.com/JFSouthIndia/>

<http://nihongo.online/>

<https://www.youtube.com/JFSouthIndia/>

# 1) 「対面⇔オンライン」から「同期⇔非同期へ」

**同期** → 教師と学習者が同じ時間を共有し（双方向で）行う授業

- ・ Zoomなどのビデオ会議システムを使った授業

※ 教室での対面授業も場所を共有した特別な同期授業と考えられる

**非同期** → 教師が準備した資料等を学習者が各自の時間で学習する授業（一方向も双方向もある）

- ・ 教師が用意した動画をみて、学習者が勉強する
- ・ 学習者が資料や本などで勉強し、レポートを提出する

※ これまでの対面授業も、予習や宿題、レポートなどは、非同期の授業だった。

※ オンライン授業では何を同期から非同期に移すかが対面以上に重要になる

**対面⇔オンライン**  **同期⇔非同期**

通常・対面

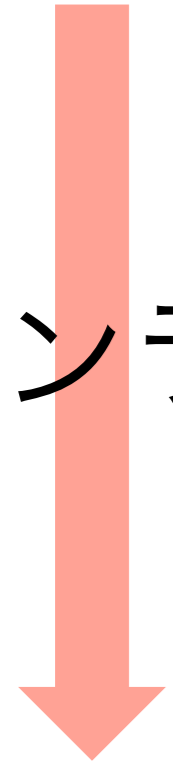


予習

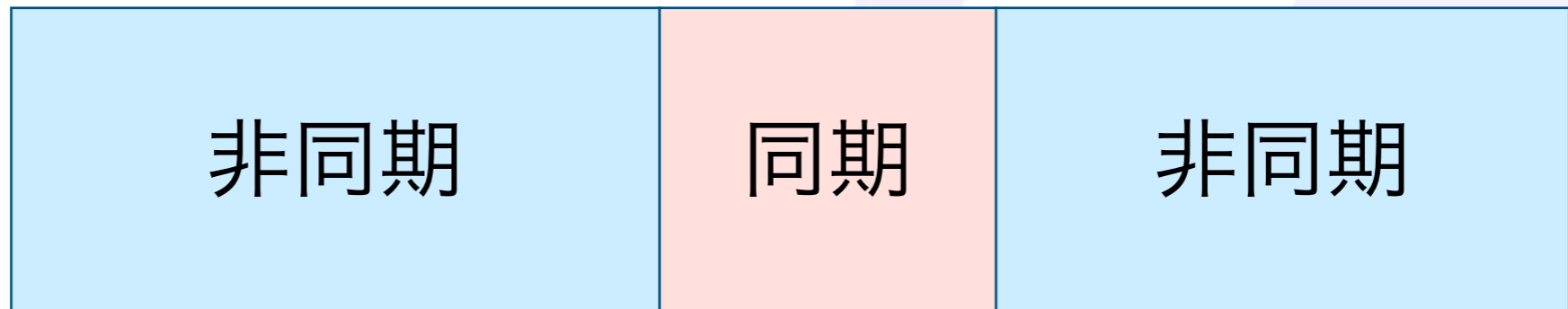
ことばの導入  
文型の導入  
単純練習  
応用練習  
会話  
作文

宿題

オンライン化



オンライン

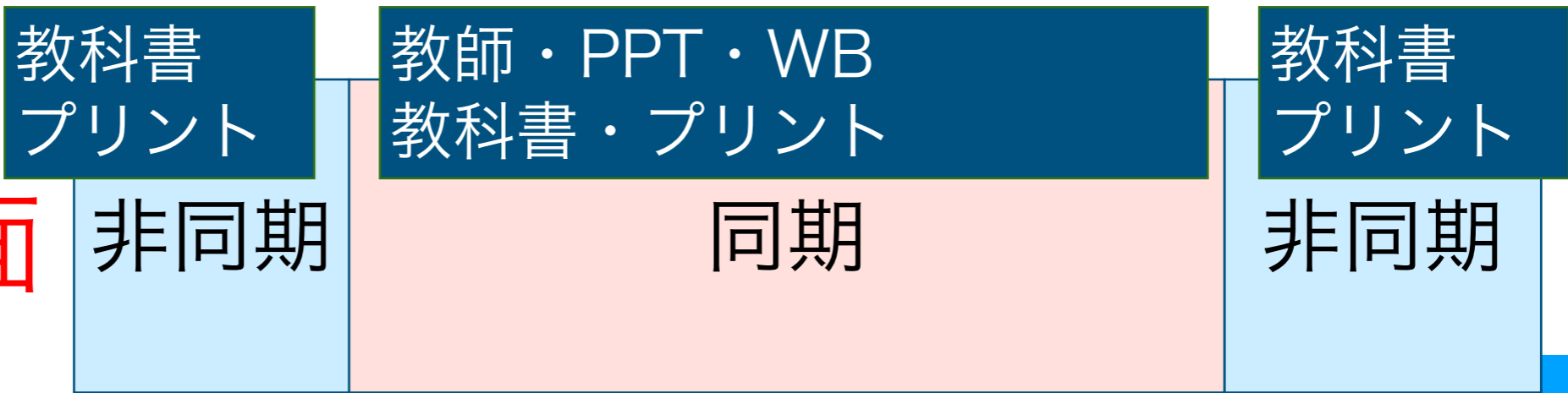


ことばの導入  
文型の導入  
単純練習

応用練習  
会話

作文  
宿題

# 通常・対面



# オンライン化

予習

ことばの導入  
文型の導入  
単純練習  
応用練習

宿題



# オンライン

ことばの導入  
文型の導入  
単純練習

応用練習  
会話

作文  
宿題



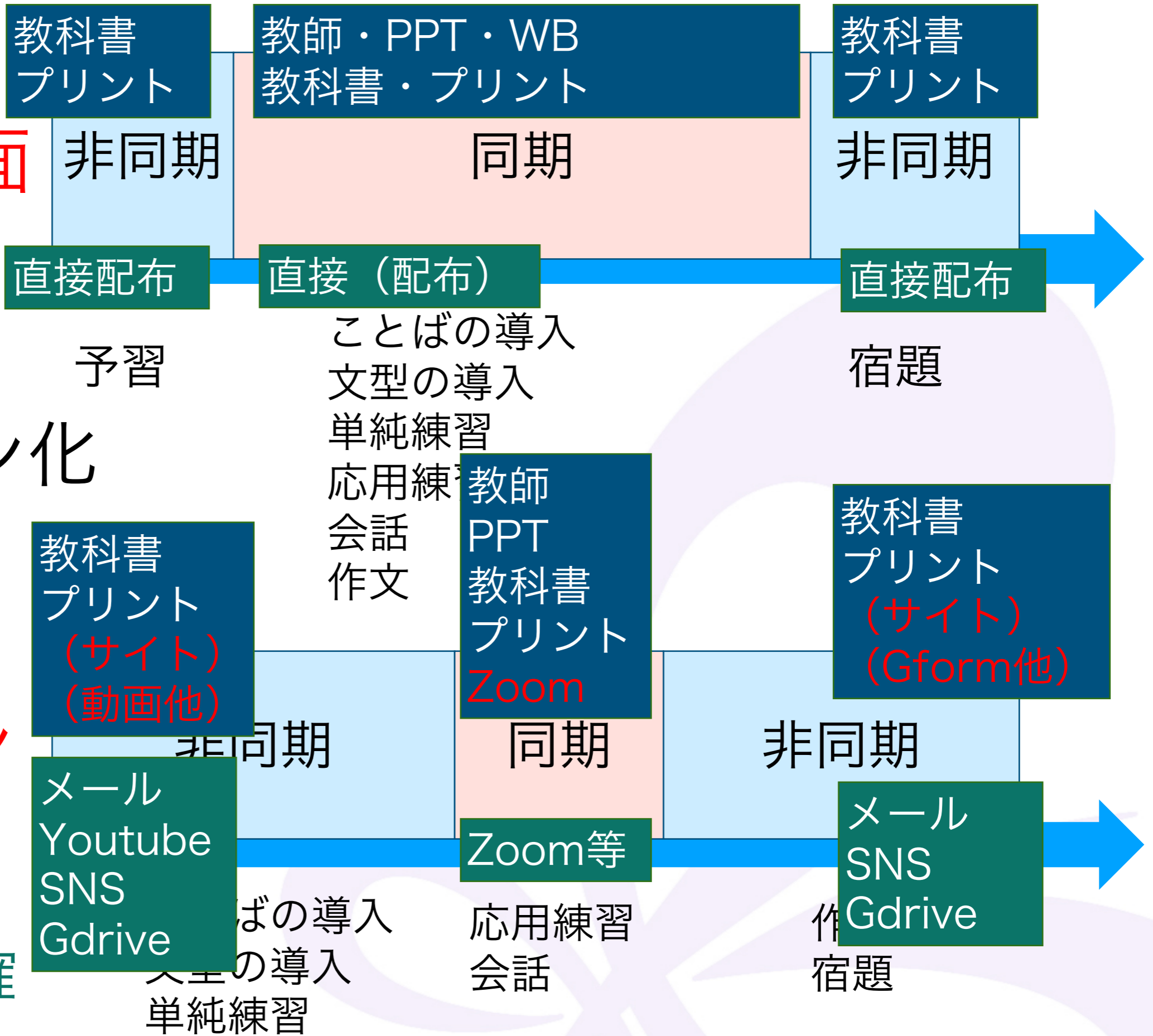


# 通常・対面

# オンライン化

# オンライン

学生との  
課題の提出・  
連絡方法を確  
保



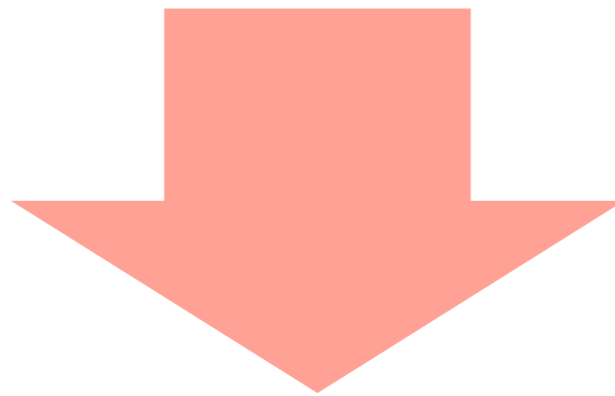
# 1) 「対面⇔オンライン」から「同期⇔非同期へ」

- 1) 対面⇔オンラインの対立ではなく、同期⇔非同期で考える
- 2) オンラインでは非同期でできることは、全部非同期に回す
- 3) 非同期で課題の提出・学生との連絡の方法を考える
- 4) 非同期ではオンラインのリソースの活用を考える（リンクを送るだけでも十分）
- 5) 余裕があれば、非同期の動画などのリソースを提供する
- 6) 同期（ビデオ会議システム）は、なるべく使いやすいシステムを使い、同期でしかできない内容を、短い時間で効率的に。

## 2) 「教える」から「学ぶ」へ

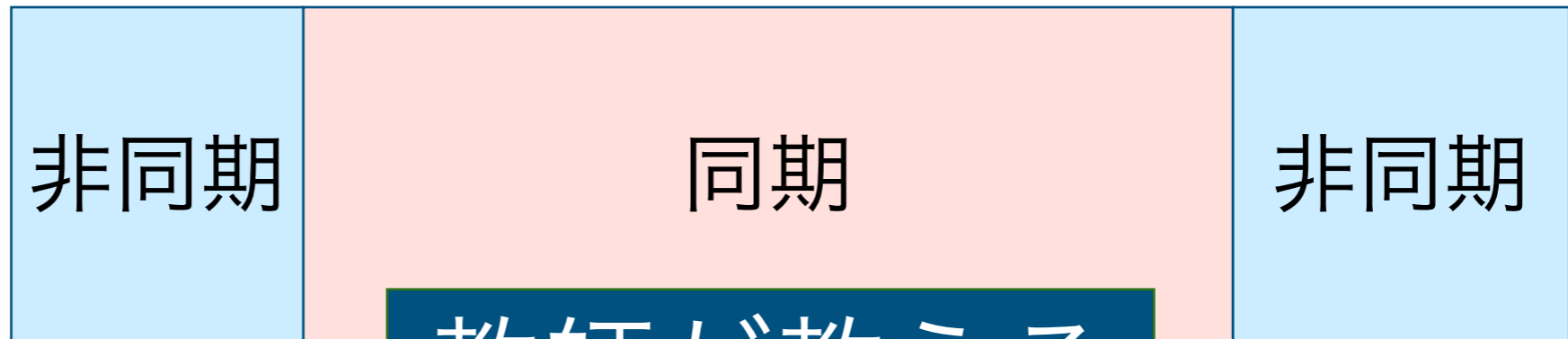
### 非同期では、自律的な学習が増える

- ・ 非同期の学習は一人で勉強する機会が増える
- ・ 教師の目が届きにくくなる



- ・ 教師は直接教えるのではなく、学習のためのリソースを与える役割
- ・ 学習者の自律的な学習をサポートすることを考える

通常・対面



教師が教える

予習

文型の導入  
単純練習  
応用練習  
会話  
作文

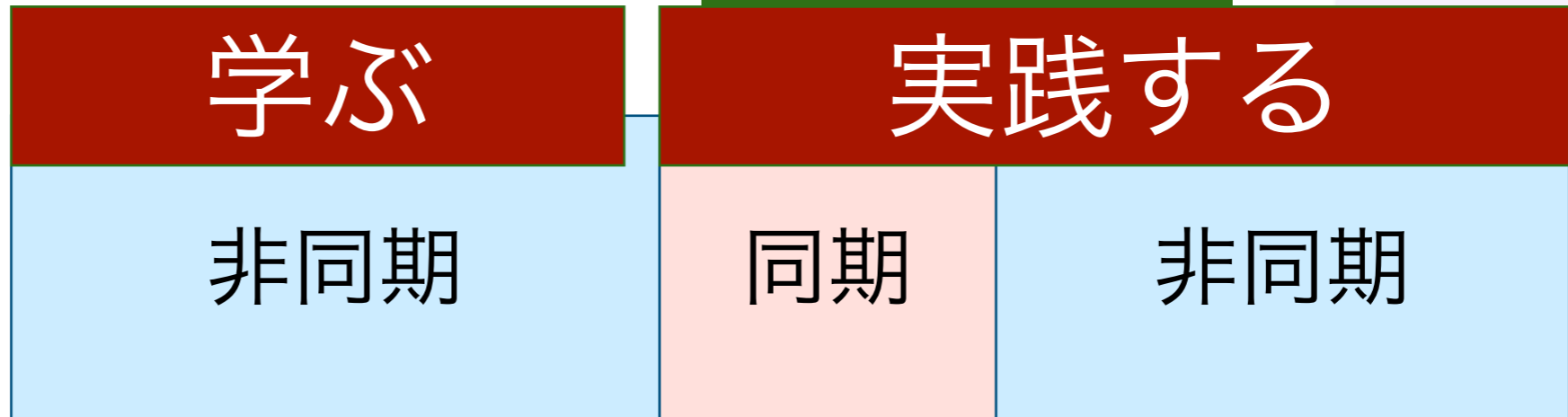
教師：アクティブ  
学生：パッシブ

宿題

オンライン化

教師：パッシブ  
学生：アクティブ

\*1



学ぶ

実践する

非同期

同期

非同期

ことばの導入  
文型の導入  
単純練習

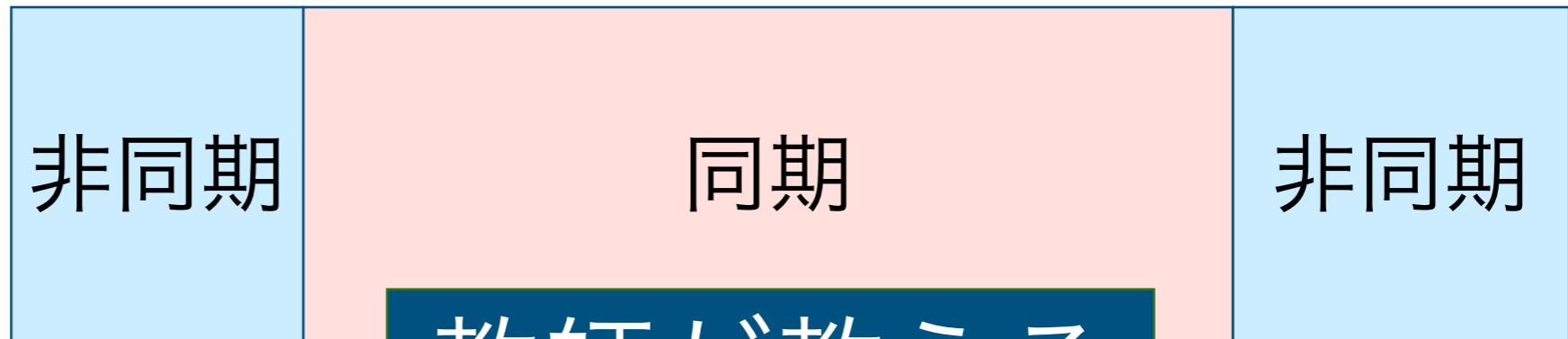
応用練習  
会話

作文  
宿題

オンライン

\*1 Simonson, M. (2000). Equivalency theory and distance education. TechTrends, 43(5), 5-8.での、ムーアの理論より

通常・対面



教師が教える

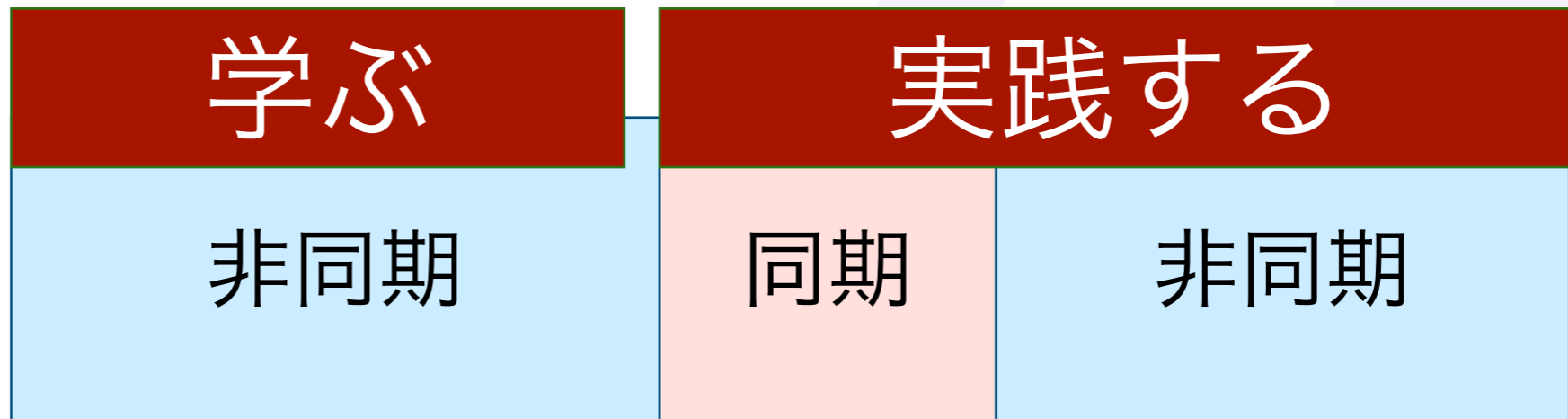
予習

文型の導入  
 単純練習  
 応用練習  
 会話  
 作文

宿題

オンライン化

学習者が主体的に学ぶ環境作り



学ぶ

実践する

非同期

同期

非同期

ことばの導入  
 文型の導入  
 単純練習

応用練習  
 会話

作文  
 宿題

オンライン



# 2) 「教える」から「学ぶ」へ

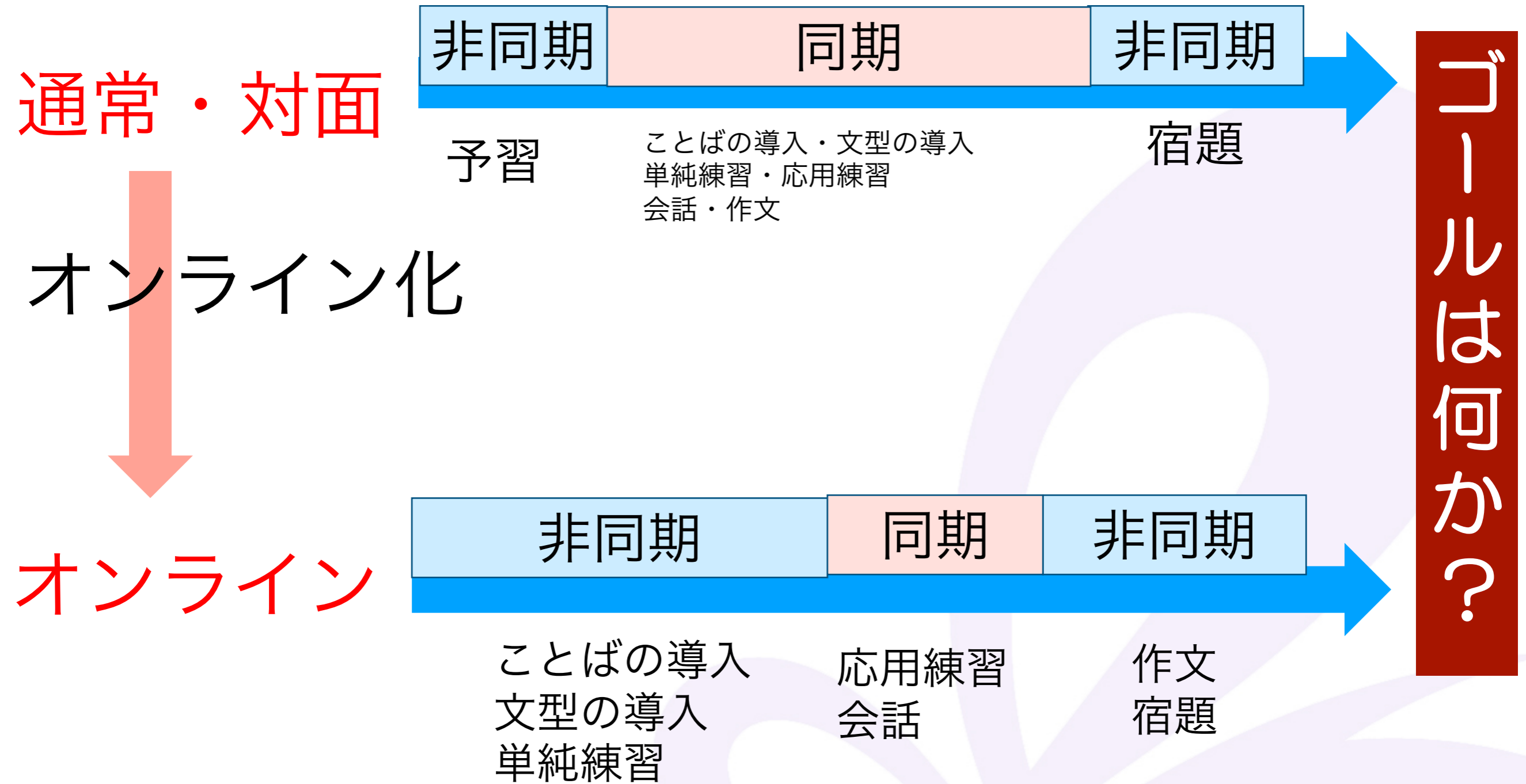
## 自律的な学習を促すために

- ・ 学習者が自分の学習を自己管理できるようにする
  - スプレッドシートなどに定期的に、学習の成果・学習の環境・自己評価等を書き込んでもらう \*1
  - 学習者・教師との話し合いの時間を
- ・ (場合によっては教師も入り) 学習者同士で情報交換や質問などがしやすい環境を作る
  - SNSの利用など
- ・ 教師から定期的に進捗状況などについて声をかける。また評価やコメントを積極的に行う

\*1 バリー・J・ジーマン、セバスチアン・ボナー、ロバート・コーバック著、塚野州一、牧野美知子訳 (2008)、『自己調整学習の指導』、北大路書房

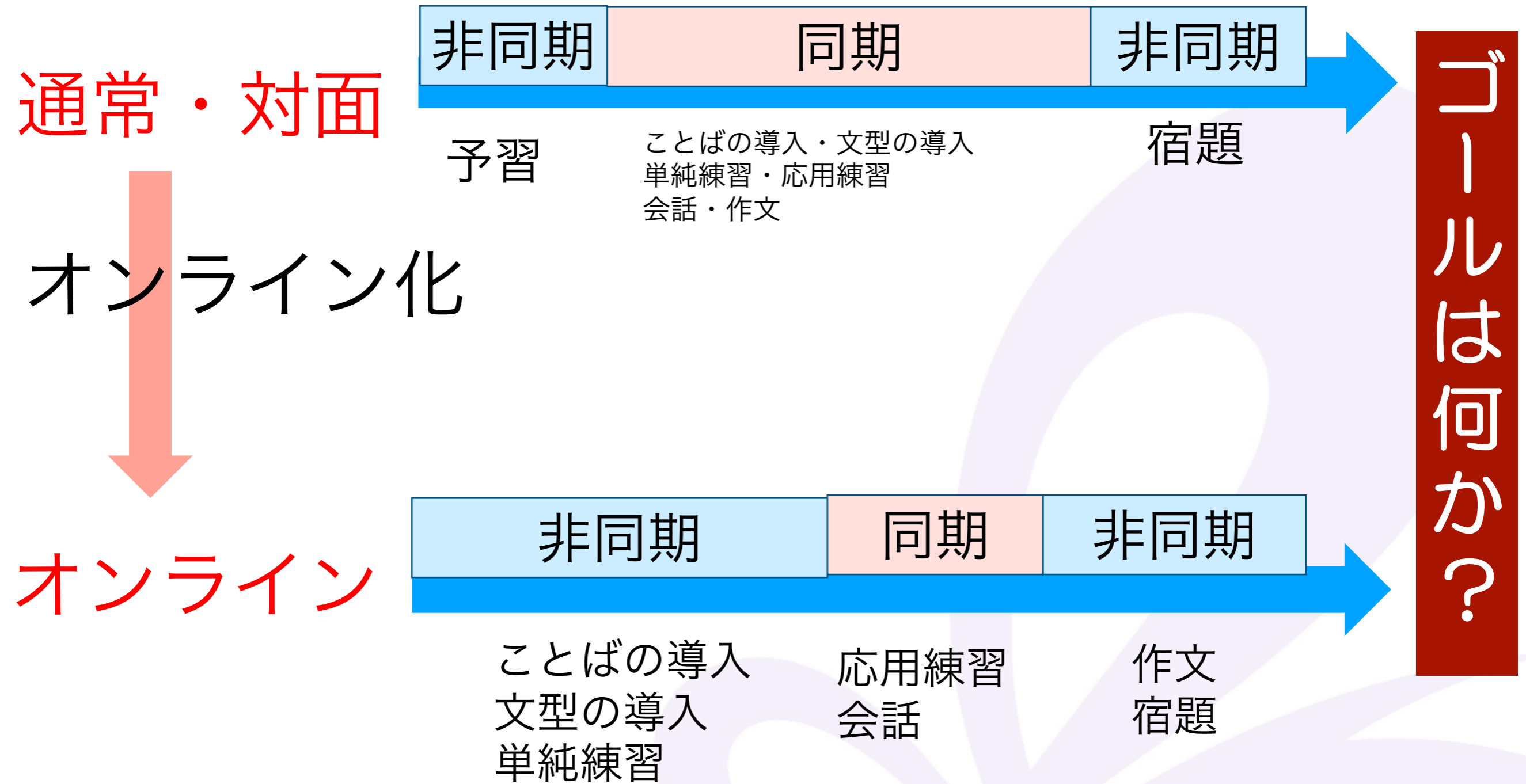
ジーマン, バリーJ・シャンク, デイルH編著 塚野州一編訳 (2006) 『自己調整学習の理論』北大路書房

# 3) Can-doで目標と評価を考える





# 3) Can-doで目標と評価を考える



同じことをするのではなく、同じ価値  
(同じ成果) を目指す

# 3) Can-doで目標と評価を考える

「（サイモンソンの「同価値理論」とは）通信技術の発達などによって、擬似的な遠隔教育環境（バーチャル教室など）が可能になってきている現在、何が遠隔教育で何がそうでないかを区別しようとするよりも、遠隔・通学を問わずすべての教育経験に「同等の価値」を持たせることに主眼を置くべきだと主張する」

（鈴木 2000）

# 3) Can-doで目標と評価を考える

- ・ 同じことをするのではなく、同じ価値＝成果を目指す
  - ・ 場合によっては、一人一人が違うことをしてもいい
  - ・ 試験＝評価＝成果、だが、それは、本当に目標と一致しているだろうか
  - ・ 評価の方法を見直す必要は？
  - ・ 目標が実際の使用に合っているだろうか
- オンライン化は目標と評価を見直すいい機会！

# 3) Can-doで目標と評価を考える

## Can-doとは何か

「～ができるの形」で  
能力や目標を表したものの  
- CEFRやJFスタンダードなどで採用

CEFR→抽象的な記述

JFS→具体的な記述

# 3) Can-doで目標と評価を考える

## みんなのCan-doサイト

<https://jfstandard.jp/cando/>

<input type="checkbox"/>	<b>CEFR</b> CEFR011	A2.1	活動	受容	聞くこと全般	—	もし、発話をはっきりとゆっくりとした発音ならば、最も直接的な優先事項の領域（例：ごく基本的な個人や家族の情報、買い物、その地域の地理、仕事・雇用）に関連した句や表現が理解できる。	—	開く	開く
<input type="checkbox"/>	<b>JF</b> JF102	A2	活動	受容	指示やアナウンスを聞く	買い物	デパートなどで、閉店時間や催し物の案内などの簡単な店内放送を聞いて、理解することができる。	—	開く	開く
<input type="checkbox"/>	<b>JF</b> JF141	A2	活動	受容	必要な情報を探し出す	買い物	お店のクーポン券などの短い簡単なテキストを見て、使用期間や条件など、必要な情報を探し出すことができる。	教材サイト 読解	開く	開く
<input type="checkbox"/>	<b>JF</b> JF480	A2	活動	受容	情報や要点を読み取る	買い物	電気製品などを紹介するネットショッピングのサイトの短い簡単な説明文を読んで、機能や大きさなど、いくつかの簡単な情報を理解することができる。	—	開く	開く

# 3) Can-doで目標と評価を考える

## Can-doでの目標を建てる場合

○ 「レストランに入って、人数と席の希望を言うことができる」 → 具体的な内容

△ 「人が何人いるかを言うことができる」  
→ いつ、どこで使うかがわからない

× 「人数に関する数詞を使うことができる」  
→ 知識 + 「できる」 （「テ形」を使うことができる）

# 3) Can-doで目標と評価を考える

## どうしてCan-doで目標を考えるのか

- 学習者のニーズに具体的に答えることができる
- 学習者にとって、学習後の成果がわかりやすい
- 具体的な目標を持つことで、それに必要な知識、能力などを具体的に考えることができる
- 「評価＝Can-doの達成」になるので、評価の方法を考えやすい（←実際の状況から考えるので、オンラインでも試験をしやすい）
- 対面とオンラインとで内容を同じにするのではなく、Can-doの目標を達成するために何ができ、何が必要なのかを考える（↑同価値理論）



# 3) Can-doで目標と評価を考える

## オンライン授業でのCan-doは？

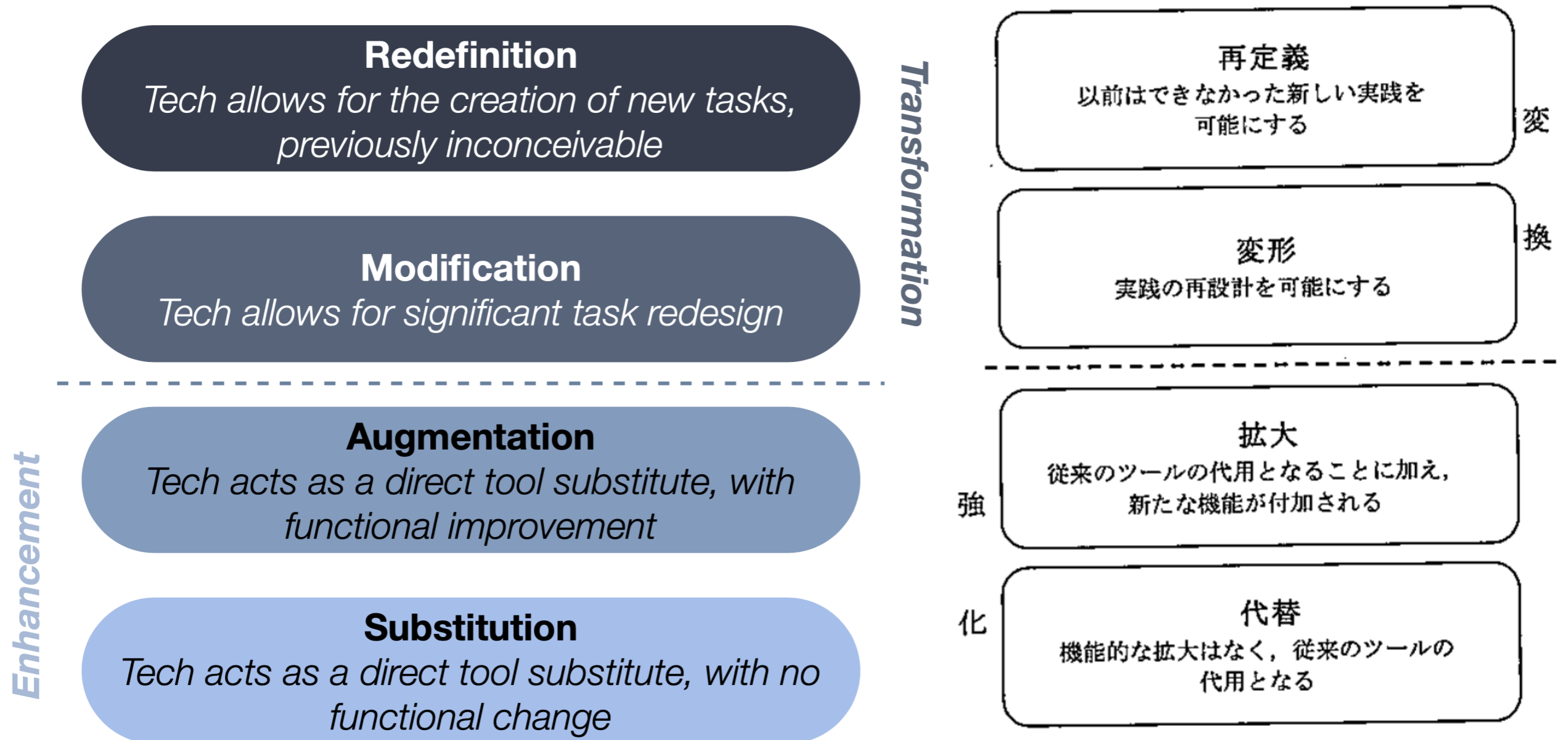
- 1) オンラインならではのCan-do  
(オンライン上で実際に実施できる)  
ex) チャットでの会話・メールのやり取り・ビデオの作成
- 2) 対面でもオンラインでもできる  
(これまでと基本変わらないが形は変わるかもしれない)  
ex) 作文・ニュースの聞き取り
- 3) 実際の対面での言語の使用  
(オンライン上でヴァーチャルに行う)  
ex) 買い物の会話・レストランでの会話  
日本に旅行に行く (Google Street View)・VR



**基本的に現在のオンライン化は  
ここまでで十分だと思いますが**

**その先を考えている方へ**

# 4. SAMRモデル – ICT化で授業を変える



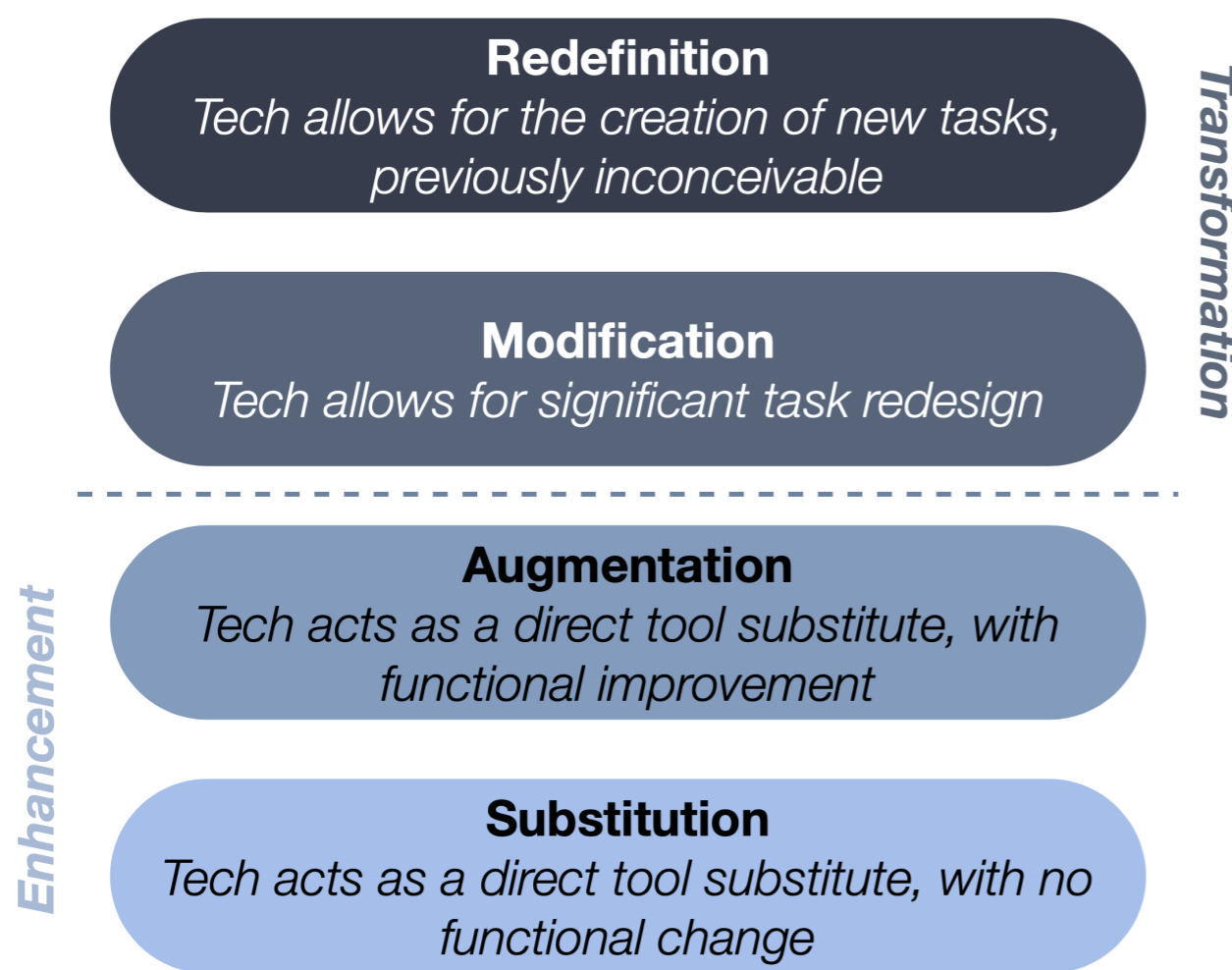
Ruben R. Puentedura, *As We May Teach: Educational Technology, From Theory Into Practice*. (2009)

図2 SAMRモデル (図1を筆者が意識)

Ruben R. Puentedura(2010) 『A Brief Introduction to TPCK and SAMR』 (<http://www.hippasus.com/rrpweblog/archives/2011/12/08/BriefIntroTPCKSAMR.pdf>)

三井一希(2014) 「SAMRモデルを用いた初等教育におけるICT活用実践の分類」, 日本教育工学会研究報告集 14(2), 37-40

# 4. SAMRモデル – ICT化で授業を変える



Ruben R. Puentedura, *As We May Teach: Educational Technology, From Theory Into Practice*. (2009)

<b>R</b>	A) 他校との作文の交流授業や家庭などへの動画配信 B) 作曲した曲をウェブ上に公開して改善のヒントを得る C) Google Street Viewを使って、自分の好きな街を散歩しながら紹介した動画を配信し、コメント欄などで交流する
<b>M</b>	A) 書いた作文を相互に発表し、感想を述べ合う B) 作曲アプリで多様な音を組み合わせ、協同して作曲をする C) Google Street Viewを使って、クラスメイトに自分の好きな街を散歩しながら、紹介する
<b>A</b>	A) 文章校正やスペルチェック B) 採点機能付きアプリで練習をする C) 自分の好きな街の写真を共有しながら、街についての会話をする。
<b>S</b>	A) 原稿用紙→ワープロソフト B) ピアノアプリでピアノを練習する C) Zoomで自分の好きな街についての会話をす

Ruben R. Puentedura(2010) 『A Brief Introduction to TPCK and SAMR』 (<http://www.hippasus.com/rrpweblog/archives/2011/12/08/BriefIntroTPCKSAMR.pdf>)

三井一希(2014) 「SAMRモデルを用いた初等教育におけるICT活用実践の分類」, 日本教育工学会研究報告集 14(2), 37-40

三井一希, 戸田真志, 松葉龍一, 鈴木 克明 「 SAMR モデルから考えるタブレット端末を用いた授業の現状分析」, 日本教育工学会2019年秋季全国大会

# 4. SAMRモデル – ICT化で授業を変える

## Redefinition

*Tech allows for the creation of new tasks, previously inconceivable*

## Modification

*Tech allows for significant task redesign*

## Augmentation

*Tech acts as a direct tool substitute, with functional improvement*

## Substitution

*Tech acts as a direct tool substitute, with no functional change*

Transformation

Enhancement

<b>R</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A) 他校との作文の<b>交流授業</b>や家庭などへの<b>動画配信</b></li> <li>B) 作曲した曲を<b>ウェブ上に公開</b>して改善のヒントを得る</li> <li>C) Google Street Viewを使って、自分の好きな街を散歩しながら紹介した<b>動画を配信</b>し、<b>コメント欄</b>などで<b>交流</b>する</li> </ul>
<b>M</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A) 書いた作文を<b>相互に発表</b>し、感想を述べ合う</li> <li>B) 作曲アプリで多様な音を組み合わせ、<b>協同</b>して作曲をする</li> <li>C) Google Street Viewを使って、クラスメイトに自分の好きな街を散歩しながら、<b>相互</b>に紹介する</li> </ul>
<b>A</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A) 文章校正やスペルチェック</li> <li>B) 採点機能付きアプリで練習をする</li> <li>C) 自分の好きな街の写真を共有しながら、街についての会話を<b>する</b>。</li> </ul>
<b>S</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A) 原稿用紙→ワープロソフト</li> <li>B) ピアノアプリでピアノを練習する</li> <li>C) Zoomで自分の好きな街についての会話を<b>する</b></li> </ul>

Ruben R. Puentedura, As We May Teach: Educational Technology, From Theory Into Practice. (2009)

Ruben R. Puentedura(2010) 『A Brief Introduction to TPCK and SAMR』 (<http://www.hippasus.com/rrpweblog/archives/2011/12/08/BriefIntroTPCKSAMR.pdf>)

三井一希(2014) 「SAMRモデルを用いた初等教育におけるICT活用実践の分類」, 日本教育工学会研究報告集 14(2), 37-40

三井一希, 戸田真志, 松葉龍一, 鈴木 克明 「 SAMR モデルから考えるタブレット端末を用いた授業の現状分析」, 日本教育工学会2019年秋季全国大会



# 4. SAMRモデル – ICT化で授業を変える

## オンラインでの協働

### Redefinition

Tech allows for the creation of new tasks, previously inconceivable

### Modification

Tech allows for significant task redesign

### Augmentation

Tech acts as a direct tool substitute, with functional improvement

### Substitution

Tech acts as a direct tool substitute, with no functional change

Transformation

Enhancement

R	<p>A) 他校との作文の交流授業や家庭などへの動画配信</p> <p>B) 作曲した曲をウェブ上に公開して改善のヒントを得る</p> <p>C) Google Street Viewを使って、自分の好きな街を散歩しながら紹介した動画を配信し、コメント欄などで交流する</p>
M	<p>A) 書いた作文を相互に発表し、感想を述べ合う</p> <p>B) 作曲アプリで多様な音を組み合わせ、協同して作曲をする</p> <p>C) Google Street Viewを使って、クラスメイトに自分の好きな街を散歩しながら、相互に紹介する</p>
A	<p>A) 文章校正やスペルチェック</p> <p>B) 採点機能付きアプリで練習をする</p> <p>C) 自分の好きな街の写真を共有しながら、街についての会話をする。</p>
S	<p>A) 原稿用紙→ワープロソフト</p> <p>B) ピアノアプリでピアノを練習する</p> <p>C) Zoomで自分の好きな街についての会話をする</p>

Ruben R. Puentedura, As We May Teach: Educational Technology, From Theory Into Practice. (2009)

Ruben R. Puentedura(2010) 『A Brief Introduction to TPCK and SAMR』 (<http://www.hippasus.com/rrpweblog/archives/2011/12/08/BriefIntroTPCKSAMR.pdf>)

三井一希(2014) 「SAMRモデルを用いた初等教育におけるICT活用実践の分類」, 日本教育工学会研究報告集 14(2), 37-40

三井一希, 戸田真志, 松葉龍一, 鈴木 克明 「 SAMR モデルから考えるタブレット端末を用いた授業の現状分析」, 日本教育工学会2019年秋季全国大会

# 4. SAMRモデル – ICT化で授業を変える

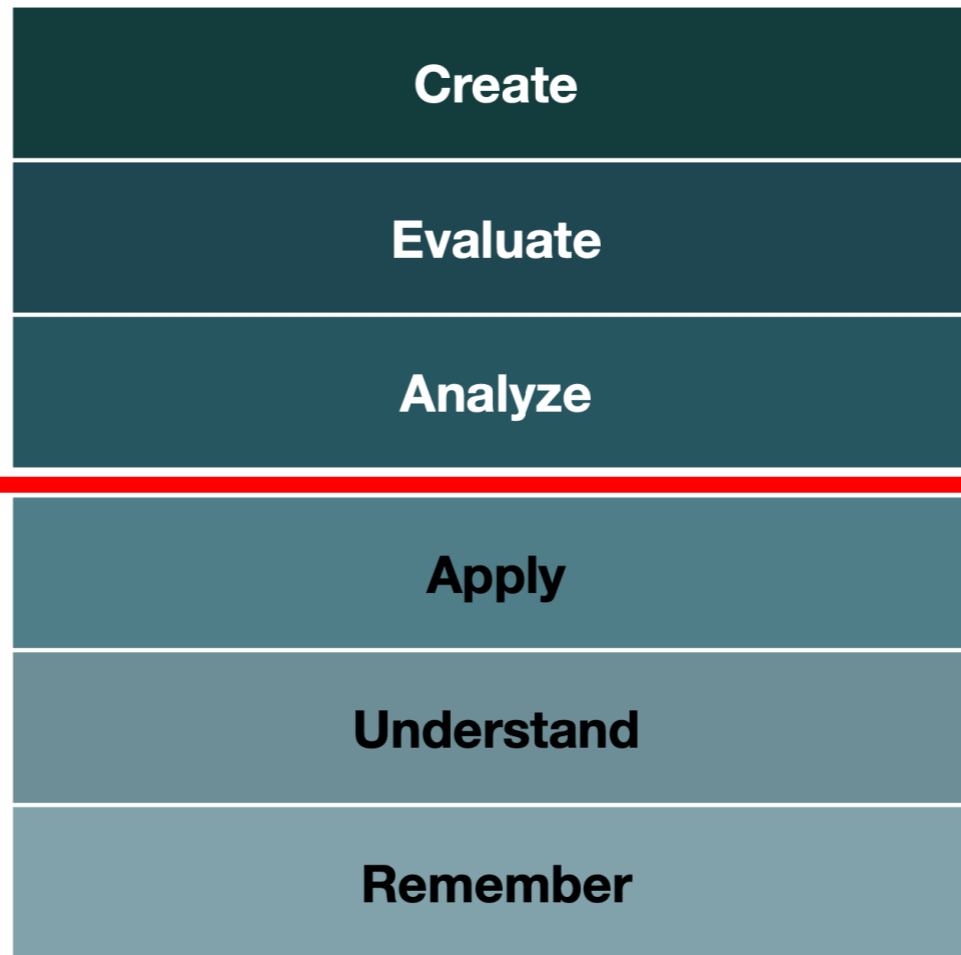
オンラインでの協働により新たな価値の創造へ

**Redefinition**  
*Tech allows for the creation of new tasks, previously inconceivable*

**Modification**  
*Tech allows for significant task redesign*

**Augmentation**  
*Tech acts as a direct tool substitute, with functional improvement*

**Substitution**  
*Tech acts as a direct tool substitute, with no functional change*



**対面の授業をオンラインで再現するのが目的ではない**

**→オンラインは対面の代替ではない**

**→授業の目的自体を考え直してみる**

**非同期を活用して、自律的な学習を促す**

**→同期は同期でしかできないことを！**

**オンラインでしかできないことを考えてみる**

**→ネットを使った協働、新たな価値の創造**

## 0. 自己紹介

1. 「対面⇔オンライン」から「同期⇔非同期へ」
2. 「教える」から「学ぶ」へ
3. Can-doから目標と評価を考える
4. SAMRモデル – ICT化で授業を変える



# ありがとうございました

<http://j-learning.com/>

<http://nihongo.online/>

国際交流基金ニューデリー日本文化センター  
日本語アドバイザー

蟻末 淳

[jun.arisue@jfindia.org.in](mailto:jun.arisue@jfindia.org.in)

<https://www.facebook.com/JFSouthIndia>

<https://www.youtube.com/JFSouthIndia>

